

平成23年6月6日

伊東市教育委員会

委員長 田中 智海 様

伊東市社会教育委員会

委員長 三枝 俊次

理想の学校教育を構想するにあたり「家庭の担う役割」について（答申）

当社会教育委員会は、平成21年1月6日付け伊教教第175号をもって諮問のありました標記の件について、慎重に検討を行った結果、下記のとおり答申します。

#### 記

##### 1 はじめに

教育には大きく分けて家庭教育、学校教育、社会教育の3つがありますが、近年この3位一体化の重要性が唱えられてまいりました。その理由は多くの人にとって教育とは学校教育と理解し、子供の教育は全て学校が担うべきとして家庭、地域の責任が希薄化され、学校依存に拍車をかけてきた結果、様々な問題が顕在化してきたからに他なりません。諮問書の中で触れられている改正教育基本法の第十条に、「家庭教育」が規定された経緯も学校中心主義からの脱却が長く提唱されていたにもかかわらず、むしろ子育てが家庭で行われず、学校中心主義になっている事実が根底にあります。今回の諮問も、上記第十条に関連してされているわけですが、広く一般的に見られる家庭教育の実情は、親の願望が投影されたもので、幼い時より基本的な生活習慣を身につけさせるよりも、学習、習い事が優先されている感があります。また子供にとって、家庭教育とは保護者の行動を「模倣」することで、当然大人としての保護者のしっかりした考え方、社会規範、節度ある行動がその規範となります。しかし、現実には行き過ぎた個人主義や、規範となるべき行動指針が定まっていない家庭が多くなってきています。近年の児童虐待、幼児殺し、不登校、引きこもり等の様々な社会問題も根底で家庭教育の問題とつながっています。私たちはこうした事態を重大に受け止め、青少年の問題を大人の問題としてとらえ、まず、大人が姿勢を正しモラルの向上や地域及び家庭の教育力を高めていくことが正に必要と考えます。しかし同時にモラルや教育力の低下は、社会の変容によって引き起こされていることから、社会教育委員会では答申にあたり、より良い家庭の役割を導き出すために、社会との関わりも含め多層的に考察する必要があると考えました。そのため保護者の家庭教育に関する意識、実態、ニーズ等を把握、分析するためにアンケート調査を実施致しました。またこのアンケート作成に関しては十分な時間をかけ、家庭の担うべき役割の中核をなす「子育て」「親学」「学校・地域への協力」等、保護者に広く求められている重要な徳目やマナーを取り上げ、「気付き」へつながることを願い推敲を重ねた経緯をお伝えします。

次代を担う青少年が、豊かな社会性と優れた創造性を培い、心身ともに健康でたくましく成長することは市民すべての願いであります。

## 2 家庭教育の現状と問題点

### (1) 現状

#### ア アンケート結果の分析

##### (ア) 幼稚園児

幼稚園名	学年等	回答依頼人数	回答者人数	回答率
萩幼稚園	年少組	33人	32人	97.0%
竹の台幼稚園	年中組	22人	21人	95.5%
八幡野幼稚園	年長組	39人	35人	89.7%
計		94人	88人	93.6%

番号	質 問 事 項	はい	時々	いいえ
1	保護者が、協力・分担して子育てをしています	79		8
2	家族全員であいさつに心がけています	84		4
3	家族全員での食事を心がけています	82		6
4	食育を考え、出来合いのものではなくなるべく家庭で料理を作っています	82		5
5	「これだけは守る」という家族のルールを決めています	58		29
6	礼儀、ルールを守る大切さを教えています	86		2
7	お箸の正しい持ち方、使い方を教えています。	73		15
8	テレビ、ビデオの視聴時間を決めています	34		52
9	絵本などをなるべく読み聞かせています	35	47	6
10	家では、子どもに手伝いをさせています	33	50	5
11	よい行いをしたときや、お手伝いに対して褒めています	84	4	0
12	悪いことをしたときには、きちんと叱っています	86	2	
13	叱った後は、普段と変わらぬ態度で接しています	86		2
14	子どもとのコミュニケーション（遊びも含め）をはかっています	77	6	5
15	親の子どもころの話を聞かせるようにしています	44	34	9
16	時々話をしながら親子で寝るようにしています	79		8
17	テレビニュース等を見ていて、内容を伝えるようにしています	32	49	7
18	子どもと一緒に地域活動や自然体験に参加しています	27	43	18
19	休みの日には、外で他の子どもたちと遊ばせています	28	38	22
20	子どもを外で遊ばせているとき、携帯電話に気を取られないようにしています	70	15	3
21	夜8時を過ぎたら、子どもを連れて外出しないようにしています	66	17	5

番号	質 問 事 項	はい	時々	いいえ
22	子どもの前で先生、友人、勤め先の悪口を言わないようにしています	73	13	2
23	子どもの前で夫婦喧嘩はしないようにしています	55	22	10
24	保護者同士の付き合いで、苦痛を感じるがあります	6	18	64
25	育児や問題行動について、園や市の教育相談室に相談したことがあります	9	6	72
26	子育てに関する講演会や勉強会が必要だと思います	61		27
27	子育てに関する講演会や勉強会に参加しています	7	39	40
28	保護者参観日には、出席しています	86	0	1
29	家におじいさんやおばあさんがいます	33		54

予想に反して「はい」の割合が高いのですが、8番（テレビ、ビデオの視聴時間を定めている）（40%）、9番（絵本、物語を読み聞かせる）（40%）、10番（家での手伝い）（38%）、18番（自然体験、地域活動への参加）（31%）、19番（外で遊ばせる）（32%）、27番（講演、勉強会への参加）（8%）はいずれも50%を切っています。特に経験値を高める18番・19番の低さが気になります。また保護者の余裕の無さが顕著に見られるのは26番の子育ての学びを必要とする割合が69%なのに対して、その実行にあたる27番で僅か8%となっています。これは3世代家庭で27番が高い傾向が見られますので、保護者が各種勉強会に不安なく参加できるためには地域、行政が本気で託児支援を行うことが求められています。また保護者の不安に関しては交通事故、犯罪を除いて子供の自立に関するものが主で子育てに不安を抱いている現代の若い保護者の姿が見られます。

(イ) 小学生・中学生

学校名	学年等	回答依頼人数	回答者人数	回答率
宇佐美小学校	1年生	28人	22人	78.6%
南小学校	2年生	39人	39人	100.0%
大池小学校	4年生	34人	27人	79.4%
富戸小学校	6年生	30人	27人	90.0%
門野中学校	1年生	32人	32人	100.0%
宇佐美中学校	1年生	27人	24人	88.9%
南中学校	2年生	32人	32人	100.0%
対島中学校	3年生	30人	27人	90.0%
計		252人	230人	91.3%

番号	質 問 事 項	はい	時々	いいえ
1	保護者が、協力・分担して子育てをしています	204		26
2	家族全員であいさつに心がけています	217		12

番号	質 問 事 項	はい	時々	いいえ
3	家族全員での食事を心がけています	167	60	3
4	食育を考え、出来合いのものではなくなるべく家庭で料理を作っています	189	36	5
5	「これだけは守る」という家族のルールを決めています	142		86
6	礼儀、マナー、ルールを守ることがなぜ大切なのか教えています	174	53	2
7	人の話をきちんと聞くことができる子育てをしています	209	1	15
8	テレビの視聴時間、ゲームの時間を決めていません	90		138
9	本をなるべく読ませるようにしています	71	118	41
10	家での役割（手伝い等）を子どもに与えています	101	118	10
11	学校や家庭で、よい行いをしたときには褒めています	206	22	2
12	人が嫌がることやいじめをしたときは、厳しくしかっています	222	8	0
13	感情的に叱ってしまった後、子どもが孤立しないよう配慮しています	153	70	7
14	子どもと、子どもの将来の職業について話すことがあります	132	77	21
15	親の子どものころの話を機会をみては聞かせています	130	91	9
16	身につけるべき生活習慣は家庭が担うものとし、習得に努めています	168	57	4
17	テレビニュース等を見て、社会の出来事を話し合うようにしています	98	114	17
18	子どもと一緒に自然体験や地域活動に参加しています	46	117	67
19	小遣いの使い道を子どもと話し合っています	89	95	44
20	子どもに専用の携帯電話を持たせる必要はないと考えています	165		64
21	夜間、不要な外出をしないようにさせています	225		3
22	子どもの前で先生、友人、勤め先の悪口を言わないようにしています	170	50	9
23	子育ての相談窓口が近くにあったらよいと思います	172		55
24	学校運営に、地域の力が必要だと思います	211		14
25	子育て、学業について市の教育相談室に相談したことがあります	9	6	211
26	子育てに関する講演会や勉強会が必要だと思います	143		80
27	子育てに関する講演会や勉強会に参加しています	11	73	140
28	保護者参観日には、学校での子どもの様子がわかるので出席しています	186	40	4
29	家におじいさんやおばあさんがいます	96		133

幼稚園同様に概ね「はい」の割合は高いのですが、5番(守るべきルールの取り決め)については小学校 66%、中学 59%と相対的に低く、家庭の中核をなす「ルール」の確立が半数の家庭でしか見られません。8番(テレビ、ゲームの時間制限)については小学校が 48%、中学が 29%となっており、我慢をすることが節度ある行動と信頼につながることを考えますと、この数字から大きな不安が感じられます。9番(本を読む)は小学校 29%、中学 23%と低く、学校で朝の読書が行われているとは言え、更なる国語力の低下と共にコミュニケーション能力の低下も懸念されます。10番(家庭での手伝い)は小学校 45%、中学 44%で体験力、家族の帰属意識を強化する大切な機会を半数以上の家庭が失っています。特に 18番(自然体験、地域活動への参加)は深刻で、小学校 21%、中学 19%と年齢が上がるにつれて経験値を積み上げる機会が減少しています。この現状はまさに憂慮すべきことで、公のため、他の人のため、世界のために貢献するという崇高な精神や有徳の人を育む徳目の自己肯定、信頼、敬愛の念の育成が阻害されている可能性があります。19番(小遣いの使い道)は小学校 43%、中学 34%で半数以下の家庭でしか生きていく上で最も重要な基本的生活習慣の育成が行われていません。ここでも同様に 26番(子育ての学びが必要)は小学校 64%、中学 61%と半数を上回っていますが、27番(子育て勉強会に参加)では小学校 3%、中学 8%と激減しています。考える理由は、幼稚園のケースと似ていますが、中学生を持つ家庭では関心事は学力と高校受験が中心となっているからだと思われます。

悩み心配では、幼稚園同様に子供の自立が挙げられていますが、特に中学生の家庭は学力低下、受験の心配が挙げられ、学業について保護者は如何に心配しているかがうかがえます。また将来の就職の不安などキャリア教育にまで至っています。

## (2) 問題点

核家族化・少子化の進展に伴い保護者は過保護になったり、その逆の児童虐待に走ったり、子供にどのように接したら良いのか分からないと言った家庭教育の低下が報じられています。また近年は所得格差が顕在化しており、経済的に破綻した家庭の教育力の低下が懸念されています。行政、学校も子育て講座や家庭教育学級等を開設して状況の好転に務めていますが、保護者も学校も余裕が無いため学級閉鎖や受講者減少の傾向が続いています。このような状況下において上記の家庭教育のキーワード「愛情」「生活習慣」「信頼」「敬愛」「節度」を体得させる役割を家庭が担うことの困難さは想像に難くありません。

## 3 理想の学校教育を構想するにあたり「家庭の担う役割」について

### (1) 理想の学校教育とは

静岡県教育委員会における「理想の学校教育具現化委員会」では、平成20年10月に理想の学校教育について提言がなされ、目指すべき学校教育を「一人一人の子どもが、様々なかかわりの中で、それぞれの資質・能力を伸長し、社会性を身に付ける学校教育」とし、目指すべき子どもの姿を「それぞれの資質・能力を伸長するとともに、心身の調

和のとれた、自立できる子ども。公共心を持ち、家族や友人と互いに尊重し合い、地域や社会と積極的にかかわる子ども。我が国と郷土に誇りを持つとともに、異なる文化を尊重し、共に生きる子ども」を有徳の人としています。その中で、家庭・学校・社会（地域）の担うべき役割をまとめ、家庭については「家庭は、保護者の愛情のもと、日々の生活を通して、基本的な生活習慣を身に付けさせ、子どもに自己肯定感や人に対する信頼感、敬愛の念を養うとともに、生活を共にする上での役割意識や行動の節度を体得させる役割を持っている。」と述べていますが、ここでの家庭教育のキーワードは「愛情」「生活習慣」「信頼」「敬愛」「節度」等が挙げられています。

## (2) 家庭の担う役割について

提言で示された教育理念は大変素晴らしいものです。しかし教育を受けるのも受けるのも人であり、人は自分の経験値を通してしか物事を判断できません。その意味でも教育理念を実現するには大人も子供も経験値を上げる必要があります。それには地域行事、自然体験そして勉強会等に参加して、自分の仕事以外の事に、責任感を持って真摯に向き合う人々と接することです。親は家庭教育の教師となる立場にいるのですから、特に奨励されねばなりません。そのためには行政、地域、学校の更なる連携が求められますが、職場の理解も重要なポイントになります。

家庭教育において具体的な取り組みとしてはアンケート分析の(1)(2)の中で触れた項目が改善されることがまず第1となります。そして当委員会で審議を通して最も重要と思われる取り組みを以下加えさせていただきます。

- ① 基本的な、ルールは幼少期に学び、身に付けていくものであり、小学生の高学年や中学生になってからでは遅すぎるので幼稚園や保育園から基本的な生活習慣の育成を徹底する。
- ② 出来るだけ子供との時間を増やし、家族が一緒にいることが如何に楽しいかを親子共々実感する。家庭の日を利用してこの取り組みを強化する。
- ③ 地域、学校は子育て中の保護者に正しい価値観は1つだけでなく、様々な考えがあり、それをバランスよく取り入れることが大切であることを繰り返し伝える。
- ④ 地域は地域の持っている力（伝統工芸、伝統芸能、環境教育、自然体験など）を生かして、子育て家庭に対して支援をする。単に家庭の参加を待つのではなく、地域から積極的に働き掛ける。
- ⑤ 問題を抱えた保護者と話をすることは、保護者同士の悩みを理解することになり、相手も心安かくなるので、勉強会等に積極的に誘って参加する。
- ⑥ 子供と接するときには、出来るだけ身体の触れ合いを大事にする。「一日 ONE ハグ 3秒間」を推奨したい。赤ちゃんの時、母親との接触が情緒の安定、自己肯定感をもたらせたように、子供に親の愛情を惜しみなく与える。
- ⑦ 家庭のルール作りに関しては「ただやるな」のルールの押し付けは止め、「どこまではやっついでいい」というルールを子供に提示する。
- ⑧ 子どもに何かをさせる時には、どんな小さなものでも構わないので、目的を持たせ

る。

- ⑨ 親子共々家庭の外に出て多くの人と接することで見地を広める。この際は出来るだけ異年齢の人々と接する。核家族の場合、特にお年寄りとの接触を大切にす。
- ⑩ 講演会、勉強会の開催に際しては保護者の就業現状を考え平日の日中ではなく、日曜日の午後といった開催日時を工夫する必要がある。
- ⑪ 親が学校行事等に参加しやすくなるには、職場の理解が重要なポイントとなる。

#### 4 おわりに

家庭教育は家庭の中だけでは成長できません。外へ出て勉強会、講演会、ボランティアに参加して、他の人と触れ合うことにより、気づきそして学んでいくものです。

現代は無縁社会という言葉が象徴するように、人と人の関わりが薄れて親の消息すら不明となっている時代です。しかし3月11日に起きた東日本大震災で、未曾有の大災害にもかかわらず、被災地域では多くの人々が助け合い、励まし合って生きております。私たちがこの大震災で目にした地域の助け合い、地域力の再生こそが、学校、家庭そして地域のありようをより良くしていく契機となることを私たちに確信させてくれています。伊東でも消失しかけている地域の力を復活させ活性化させることで家庭教育の力も向上し、これが、理想の学校教育につながっていくものと考えます。

この答申書を提出するにあたり長い時間をいただきました。そのおかげで一つのテーマについて多層面からとらえる訓練ができ、社会教育委員として1歩も2歩も成長させていただいたことを実感しております。教育委員会に対しましては深く感謝申し上げますとともに、願わくば従来の社会教育事業の説明に終始するのではなく、社会教育委員が社会教育行政の真の推進役に成長できるような運営を心よりお願い申し上げます。

以 上

#### 社会教育委員名簿

任期：平成21年4月21日～平成23年3月31日

氏名	選出区分	備考
山口 康裕	4	委員長
三枝 俊次	4	副委員長
小林 律雄	1	21年4月21日～22年3月31日
佐藤 直道	1	22年4月1日～23年3月31日
岩崎 淳子	2	
川井 清美	4	H22.2.9 逝去
鈴木 洋子	2	副委員長
内野 雄司	3	
堀崎 龍夫	2	
八木 弘子	2	

梅田 泰史	1	21年4月21日～22年3月31日
安田 康一	1	22年4月1日～23年3月31日
田村 貢	2	
植田 質	4	
菅原 清光	2	21年4月21日～22年3月31日
塩谷 大地	2	22年4月1日～23年3月31日
高田 京子	3	

選出区分 1 学校教育関係者 2 社会教育関係者 3 家庭教育の向上に資する活動者  
4 学識経験者

#### 社会教育委員名簿

任期：平成23年4月18日～平成25年3月31日

氏名	選出区分	備考
三枝 俊次	4	委員長
稲葉 英彰	1	
大村 涛子	2	
内野 雄司	3	
堀崎 龍夫	2	副委員長
八木 弘子	2	
田村 貢	2	
塩谷 廣男	4	
高田 京子	3	

#### 社会教育委員会審議経過の概要

第1回	21. 1. 13	「理想の学校教育を構想するにあたり『家庭の担う役割』について」審議の進め方について決定
第2回	21. 6. 8	「理想の学校教育を構想するにあたり『家庭の担う役割』について」のアンケート調査について
第3回	21. 9. 7	「理想の学校教育を構想するにあたり『家庭の担う役割』について」のアンケート調査案の修正について
第4回	21. 11. 20	「理想の学校教育を構想するにあたり『家庭の担う役割』について」のアンケート修正案について
第5回	22. 2. 25	「理想の学校教育を構想するにあたり『家庭の担う役割』について」アンケート集計から意見交換
第6回	22. 6. 25	「理想の学校教育を構想するにあたり『家庭の担う役割』について」のアンケート集計結果をもとに意見集約
第7回	22. 9. 28	「理想の学校教育を構想するにあたり『家庭の担う役割』について」アンケート集計結果をもとに意見集約
第8回	22. 12. 21	「理想の学校教育を構想するにあたり『家庭の担う役割』について」「家庭教育を支えるために地域にできること」について各委員の意見交換
第9回	23. 3. 17	「理想の学校教育を構想するにあたり『家庭の担う役割』について」「地域が支え融合した状態を作り出すための「家庭の担う役割」について意見交換



第10回	23. 6. 1	「理想の学校教育を構想するにあたり『家庭の担う役割』について」の答申書の内容について
------	----------	--

## アンケート結果具体例

設問5 「これだけは守る」という家族のルールを決めていますか。

### 幼稚園

- ・嘘をつかない
- ・あいさつをする。マナー・ルールを守る
- ・食べた物の片付けをする。靴を揃える
- ・感謝すること。ありがとう、ごめんなさいを言う
- ・隠し事をしない。何でもやる
- ・人に優しくする
- ・「行ってらっしゃい」「行ってきます」など顔を見て言う
- ・自分でできることは自分でする
- ・優しい気持ちで相手の気持ちを考える
- ・友達に何かいただいたことがあったり、してもらったことがあったら報告する
- ・人に迷惑をかけない
- ・自分がされていやなことは他人にしない。言わない。
- ・朝起きたら、必ず「おはよう」と顔を見てあいさつする。
- ・あいさつをきちんとする。悪いことをしたらきちんと「ごめんなさい」という。
- ・食事が出された物は残さず食べる。
- ・使ったものは片付ける。
- ・食事中、座ったら食べ終わるまで歩かない
- ・自分でやられて嫌なことは相手にもしない
- ・弱い者いじめをしない。
- ・履物を揃える。ありがとう等の気持ちを相手に伝えられるようにする。
- ・食後、食器は自分でさげる
- ・あいさつをちゃんとする。ご飯を残さず食べる
- ・おやつやお菓子を食べても、ご飯は全部食べる。
- ・知らない人についていかない。交通ルールを守る
- ・嘘を言わない。なるべく自分のことは自分でやる
- ・早寝、早起きをする
- ・友達の家遊びに行ったときは、「おじゃまします」「おじゃましました」と言う
- ・ありがとう、ごめんなさいと言えるようにする
- ・悪いときは悪いとあやまる
- ・家にお客様が来たときは、あいさつする
- ・姉について、名前ではなく「お姉ちゃん」と呼ぶ

### 小中学校

- ・噂のない家族、学校でのことを家で話す
- ・寝る時間を守る
- ・嘘をつかない。自分で考える。あいさつの言葉ははっきりとする
- ・帰宅したら必ず宿題をする。食事の手伝いをする
- ・自分がやられていやだと思うことを人にはやらない
- ・朝一番はじめに水を飲む
- ・何かしてもらったら、ありがとうを言う
- ・親に口答えをしない。予習、復習は毎日やる。自分のものは自分で片付ける
- ・人に迷惑をかけない
- ・時間や目標を決めて頑張る
- ・大きな声であいさつする。返事をする
- ・知らない人についていけない
- ・子どもは9時に寝る。歯磨き後は何も食べない
- ・ゲームの時間を守る。帰宅時間を守る
- ・人に優しくする
- ・自分の食べた食器をさげる
- ・早寝、早起き、きっちり朝食を守る
- ・時間を守る（帰宅時間を守る）
- ・約束を守る
- ・嘘をつかない
- ・弱いものを守る
- ・自分のことは自分でする。（食後の片付け等）
- ・朝6時に起きて、夜8時に寝る。
- ・おはよう、ただいま、おやすみ、おかえりのあいさつを言えるようにする
- ・一度決めたことは最後までやりぬく
- ・あいさつ、返事をきちんとする
- ・何でも話をする
- ・お手伝いを進んでする
- ・お風呂を用意する
- ・「ありがとう」「ごめんなさい」を言う。
- ・助けてもらったら、家族でも感謝して「ありがとう」と言う
- ・できるかぎり自分のことは自分でする
- ・友達を大切にする
- ・やることをやったら、後は好きなことをする
- ・寝る時間を守る
- ・手洗い、うがいをする
- ・食事の手伝いをする

- ・有言実行
- ・仲良くする
- ・夜は早めに休む。人の体格のことを悪く言ったり、差別しない
- ・あいさつは、どんな時でもする
- ・警察に捕まるようなことはしない
- ・人を傷つけない
- ・喧嘩しない
- ・人に対して、絶対にあいさつする
- ・責任を持ち果たすため、当番制にして家事の分業をする
- ・親に心配をかけない
- ・帰ってきたら連絡をする（仕事で家を留守にしているときでも）
- ・ゲーム、携帯、勉強に関して守ることを決めている
- ・あいさつと、何事も皆で話し合う
- ・外出先を必ず伝える（両親が働いていて、メールでの報告可）
- ・連絡、門限、あいさつ、思いやり等を守る
- ・嘘はつかない。自分のことは自分でやる。自分で決める。
- ・自分が嫌なこと（言われたり、やられたり）は人にしない
- ・相手の立場で物事を考える
- ・命を大切にする
- ・暗くなるまでには、家に帰ってくる（だれとどこに行くのか、必ず言って行く）
- ・約束を守る。自分のやることをきちんとやる
- ・やることをやってから遊ぶ
- ・外出するときは、帰宅時間を言って行く

設問30 保護者として、子どものことで一番心配している（悩んでいる）ことは何ですか。

#### 幼稚園

- ・学習はもちろんのこと、生活面や友人関係なども大きく変化するときなので、来年小学校の入学にあたり、新しい環境にスムーズに入れるか心配
- ・小学校に入ってから通学時の防犯の面が心配
- ・交通その他安全面が心配
- ・誰にもあいさつしてほしいが、今の世の中危ないことが多くて心配
- ・すごく泣き虫で、どうでもいいことでもすぐ泣いてしまい心配
- ・仲のよい友達ができるかどうか心配
- ・最近、面倒くさいと言うのが心配
- ・友達とコミュニケーションがとれて遊ぶ事ができているか気になり心配
- ・最近子どもに関する事件が増えているので、小学生となって子どもだけの通学などにおける事件・事故が心配

- ・彼ら彼女らが変わっていくであろうこの世の行く末、住民にとっての教育、文化、設備、施設がとても貧弱で、いくら親が頑張っても行政の支援が心細く心配
- ・友達に優しく接しているか、乱暴なところがあるので嫌われていたらと思うと心配
- ・弁当を残すことがあります。食べるのが遅いせいか友達に「残しな」と言われることがあるそうで心配
- ・友達関係がこれからどうなっていくのか心配（今の時代、親同士仲良くしないと子ども同士も仲良くなれない風潮があり面倒くさい）
- ・子どものことよりも親の方が心配（今の親及び祖父母等のマナーの悪さが目立つ）
- ・現在年長なので、来年から小学校生活が心配（新しい世界へ送り出すには心配ばかり）
- ・車の事故や最近の異常事件に巻き込まれないかと心配
- ・近所に友達がいなくて、幼稚園に通うまで友達と遊んだことがなく、そのため幼稚園での友人関係がうまくいくか心配。近所の公園に行くのに車が多く走るところを歩くので心配
- ・食べ物の好き嫌い、わがまま、言うことを聞かない、正しい道路歩行や正しい自転車の運転ができないことを心配
- ・薬物が簡単に手に入ってしまうことが心配
- ・「みんながナニナニしたから」と言う会話にみょうに反応してしまい、自分の考えや思いがないのを心配
- ・食事で、好き嫌いが激しく心配している。言葉づかいが悪く、友達に悪影響を与えているのではないかと心配
- ・道路の飛び出しなど交通事故が心配
- ・父親の転勤において、転居する先々で母子共によい人間関係が築けるか心配
- ・自分の子どもがトラブルの原因を作っていないか、友達関係を心配。教育、性格、行動における注意やしかり方が正しいのか心配
- ・叱りすぎ、叱らなすぎが心配
- ・言葉づかいが悪いことと聞き分けがないことを心配
- ・友達と係わり合いがあまりなく、幼稚園の友人しか遊んでないので、これから近所の子どもとの関係を築く上で、上手に付き合っていけるかが心配
- ・食事の好き嫌いが心配
- ・言葉づかいが悪いのが気になり、男の子なのでそれがかっこいいと思っていることが心配
- ・親の仕事の関係で、あまり父親と接する時間がないことが心配
- ・不審者の話をよく聞くので心配
- ・他園でいじめがあると聞き、子どもがもしかしたらと心配
- ・自分の思い通りにならないと機嫌が悪くなるのが心配
- ・食べ物のバランスがとれているかどうか心配
- ・双子がいて、あまり息子にかまっていあげてないため、息子がさびしい思いをしてない

かとか悪い方に行かないかとか心配

小中学校

- ・一人で帰宅するときの不審者が心配
- ・学力が心配
- ・自立させられるかが心配
- ・学校生活においての自分のことを親に話が出来ないことが心配
- ・人に甘える傾向があり、これから自立していけるか心配
- ・いじめの問題が心配
- ・交通事故・傷害事件等の安全が心配。校内での言葉づかい・友人関係・先生の指導が心配
- ・我慢できない。すぐあきらめる。やってみないで初めからやらないことが心配
- ・他の友達と一緒に悪いことでも右に倣えになってしまうことが心配
- ・少し神経質で心配性のところが心配。学校での活動が心配
- ・家庭で、やらなくてはならないことを後回しにすることが心配
- ・学校生活において、自己主張をしつつ周囲との調和を考えての発言や行動ができるか心配
- ・友人とのトラブルが心配（友人に意地悪をされても家庭に伝えず、担任からの知らせでわかった）
- ・今はまだないが、友人関係のトラブルが心配
- ・人に言われたことに対して、すぐに切れるところが心配
- ・保護者会で、先生からクラスの生徒が多いため面倒がみきれないと言われたことで不安
- ・これから、いろいろのところに遊びに行く機会がふえてきて、交通事故や不審者のことが心配
- ・小学一年生になってから、言葉づかいがとても悪くなり、下の子にも悪い影響を与えているのを心配
- ・いじめを心配
- ・自分で考え、行動できているのかという点を含め、子ども自身が自分の考え、気持ちを周囲に伝えることができているか心配
- ・登下校時の安全が気になり心配
- ・ゆとり教育のしわ寄せなのか、低学年なのに勉強することが多いように思われ心配
- ・「〇〇ちゃんもやっているから」「〇〇君も持っているから」などと言うことが多いのが心配（人のせいにならない。よその家と自分の家とは違うことをきちんと納得させたい。）
- ・一般的に、親が過保護に育てすぎて、時々、価値観と子育て方法が違いすぎると感じ心配
- ・親が見ていないときでも、言葉づかいやあいさつができているか、良いこと悪いことの区別をしっかりとできているか心配
- ・叱りすぎていないか、どこまで叱るべきか悩んでしまう

- ・将来、子どもの就職について心配
- ・子どもを3人育てているが、3番目の子がなぜか細かいことを気にして、学校へ行かなくなるのを心配。これから大人になっていくについて、他人と仲良くやっていけるかどうかも心配
- ・学力のことと人間関係が心配
- ・勉強や友達とのことをうまくやっていけるかどうか心配
- ・学校での生活の中で、友達と仲良くできているかどうか心配
- ・全国的に見たとき、伊東市内の生徒の学力があまりよくないことが心配
- ・あいさつができていないか心配
- ・休日はほとんど、家族や一人であるほうが多く、友人と遊ぶことが少ないので心配
- ・同級生とのかかわり方やのびのびと成長できるか心配
- ・人間関係をうまくつくれるか心配
- ・何をやるにも諦めているような希望がないような、全体的に「無気力」な感じが心配
- ・体力がないので、疲れると体調をくずしやすい。健康面が心配
- ・人間関係をうまくつくれるか心配
- ・何をやるにも諦めているような希望がないような、全般的に「無気力」な感じが心配
- ・体力がないので、疲れると体調をくずしやすい。健康面が心配
- ・体調を崩しているため健康面が心配
- ・いじめる側やいじめられる側にいたとしたら心配
- ・あまり勉強が好きではないので、高校へ入学できるか心配
- ・自主勉強のやり方で、いまいち理解というポイントのおさえ方がわからないようだが内容までは口に出せないのが大丈夫か心配
- ・学校での様子、特に友達関係が心配
- ・先々の進学について心配
- ・何事もマイナス思考で、すぐにあきらめてしまうので心配（努力すればもっとできるようになるというプラス思考で進んで行けるようになってほしい）
- ・将来、何の仕事に就きたいか、何になりたいか、目標になることが見つけられないことが心配
- ・学力の低下が気になり心配（基本をしっかりと覚えていないので）
- ・上の子が女の子で、自分たちの子どもころより友人関係がむずかしいような気がして心配
- ・友達とのかかわりを心配
- ・とても悪い事件が多く心配
- ・年齢にあったものの考え方や行動ができるか心配
- ・苦手科目をどうしたらよいか心配
- ・将来のことについて心配
- ・ゲームの時間が長く、最低やらなくてはならないことをしっかりやらないため心配

- ・マイペースのところがあるので、周囲の子どもに合わせられるか心配
- ・朝、起きられないことを心配
- ・学校を休みがちで、学業の遅れを心配
- ・いじめられやすいので心配
- ・マイペースのところがあり心配
- ・病気や怪我がないように、健康管理が心配
- ・性格のことを心配
- ・子どもの進路（将来）が心配
- ・手本になる大人が少なくなったことを心配
- ・帰宅後の過ごし方、携帯電話やブログの利用の仕方、トラブルなどを心配
- ・生活していく上で、故障を一番心配

諮問書

伊教教第117号

平成21年1月6日

伊東市社会教育委員会

委員長 山口康裕様

伊東市教育委員会

委員長 田中智海

諮問書

下記の事項について、諮問します。

1 諮問事項

理想の学校教育を構想するに当たり「家庭の担うべき役割」について

2 諮問理由

(1) 平成18年12月22日、新しい教育基本法が公布、新たに「家庭教育」が第十条として規程されたことに伴い、すべての教育の出発点である家庭教育の重要性を十分に認識し、その役割や支援のあり方について検討する必要があること。

(2) 第三十期静岡県社会教育委員会は、平成20年7月28日、報告書「家庭教育支援のあり方と方策」を提出した。これは、改正教育基本法が新たに「家庭教育」を掲げたのを受け、約2年に及んだ審議の成果をまとめたものである。

ここでは、家庭教育の現状を「家庭での教育を担う親（保護者）は、最近ではその多くが子どもの教育について関心を持ち、自分の子どもを大切にしている傾向にあるといわれる。また子育てに参加する父親もわずかながら増えているようである。しかしながら、一方で、子育てに確固たる方針を持たず単に負担なことだけ考えてたり、親（保護者）側の大人の生活を優先させ、その都合で子どもを生活させたりする場合も少なくはないといわれている。また、教育熱心なあまりに自分の子育てに自信を持てずに、その悩みや問題を一人で抱え込んでしまっている場合もみられる。」ととらえている。

このような状況からも、これからの家庭教育のあり方について提言する必要があると考える。

(3) 静岡県教育委員会の「理想の学校教育具現化委員会」の提言が平成20年10月に出され、教育の中で学校が果たすべき役割について問い直すために、家庭・学校・社会（地域）の担うべき役割をまとめる中で、家庭については「家庭は、保護者の愛情のもと、日々の生活を通して、基本的な生活習慣を身に付けさせ、子どもに自己肯定感や人に対する信頼感、敬愛の念を養うとともに、生活を共にする上での役割意識や行動の節度を体得させる役割を持っている。」と述べている。

こうしたことから、理想の学校教育を構想するためには、上記のような役割を果たすことができる家庭教育のあり方を探っていく必要があると考えるため諮問する。